

白井市総合教育会議録

○会議日程

令和6年8月6日（火）

白井市役所東庁舎3階会議室302・303

1. 開会
2. 市長挨拶
3. 議題 平和事業・教育について
4. 閉会

○出席委員等

教育長	井上 功
教育委員	齊藤 豊
教育委員	中里 敏康
教育委員	松田 加奈子
教育委員	久保 利枝

○出席職員

市 長	笠井 喜久雄
企画政策課長	村越 貴之
企画政策課	齋藤 淳基
教育部長	榛沢 宏一
教育部参事	大高 一穂
教育総務課長	落合 一矢
生涯学習課長	西口 武雄
文化センター長	高花 宏行
書 記	中村 妃佐
書 記	原川 楓乃

午後3時00分 開 会

○事務局 ただいまより令和6年度第1回白井市総合教育会議を開催いたします。

本日、議事進行を務めさせていただきます企画政策課の齋藤と申します。よろしくお願いします。

本会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、市長と教育委員会が十分な意思疎通を図り、地域の教育の課題やあるべき姿を共有して、より一層民意を反映した教育行政の推進を図ることを目的として市長が設置するものであります。

それでは初めに、市長から挨拶をよろしくお願いいたします。

○笠井市長 皆さん、こんにちは。暑い中、総合教育会議に出席をしていただきまして誠にありがとうございます。毎回毎回、皆さんと意見交換することを楽しみにしております。

前は、子供の居場所ということで、いろいろな御意見等を頂きました。その御意見等を踏まえな

がら、計画的に進めていきたいと思っております。

今日は、平和事業と平和教育について皆さんと意見交換をさせていただきたいと思います。

くしくも今日、8月6日午前8時15分に、世界で初めて広島に原爆が投下されて、甚大な被害がございました。このことも踏まえながら、これからの平和事業、平和教育の在り方について、皆さんと意見交換をして、何か次の子供たちに残して、レガシーではないのですけれども、残していきたいなと思っていますので、忌憚のない御意見等を頂きたいと思います。よろしくお願いいたします。

○事務局 ありがとうございました。

それでは、これより議題に入らせていただきます。

「平和事業・教育について」笠井市長から御説明がありますので、お願いします。

○笠井市長 パワーポイントで資料を作ってきましたので、まず、この資料の概要から説明をさせていただきます。

平和事業ということで、今日、8月6日であります。まず、ここにスライドではないのですけれども、日本国憲法、少し趣旨をここで調べて掲載をさせていただきます。

御承知のとおり、日本国憲法というのは、国内の最高の法規であります。これに基づいて、それぞれの法律がなっているわけですが、その一番中心の三つの基本原理がございます。

まず一つは、国民主権ということで、国家の主権が国民にあること。二つ目の基本原理ですが、基本的人権の尊重ということで、人が生まれながらにして持つ権利を尊重すること。三つ目、今日の本題、平和主義というのが基本原理の中のうちの一つにございます。これは、戦争や暴力を否定して平和を尊重する立場ということで、この憲法というのは、国民の権利として守ることが基本になっておりますので、この基本原理が三つあるということを前提条件で話をさせていただきたいと思います。

次に、平和教育について自分なりに調べました。これは出典元が、広島県教育委員会のホームページの中に平和教育というのがございまして、ここに載っているものがあります。お手元にパワーポイントの資料があると思うので、そちらを見ていただきたいと思います。自分もいろいろホームページを見て、平和教育とは何か、根本から少し勉強しようと、この広島県が一番いいだろうということで、この抜粋をさせていただきました。

一つは、平和教育は、日本国憲法の理念に基づく教育基本法及び学校教育法に示されている教育の根本理念を基調として、学習指導要領に則って実施するものということとなっております。この学習指導要領の中身については、この後、教育委員会の方から話がありますが、私については、その部分ではなくて、違った部分で話をさせていただきます。

従って、児童生徒の発達段階に配慮した上で、自他を尊重し合い、我が国の社会や文化に対する理解と愛情を深めるとともに、国際理解や国際協調の視点に立ち、恒久平和を願い、国際社会に貢献する人づくりを進めることを基本とするとうたわれています。

また、教育基本法の前文には、このような文言がございます。

我々日本国民は、たゆまぬ努力によって築いてきた民主的で文化的な国家を更に発展させるとともに、世界の平和と人類の福祉の向上に貢献することを願うものである。我々は、この理想を実現するために、個人の尊厳を重んじ、真理と正義を希求し、公共の精神を尊び、豊かな人間性と創造性を備えた人間の育成を期するとともに、伝統を継承し、新しい文化の創造を目指す教育を推進する。

非常に難しく長いといったような分からない部分もありますが、こういうふうに基本法ではうた

われています。という中で、今まで白井市がこの平和教育、平和事業について、どういうことをやってきたかということで、少し説明をさせていただきます。

まず、一番大きいのが、１点目が平和都市宣言。これは昭和６２年３月１３日に宣言されています。この具体的な中身、内容については、ホームページにも掲載がありますし、東庁舎の１階に、内容を掲示しております。

それと併せまして、二つ目には平和の像の建立ということで、寄贈者が藤井製作所になるのですが、これも東庁舎のほうに、ああいう平和の象徴を形としたものを設置しています。昔は役所の昔の庁舎にあったんですよね。それを改修したので東庁舎に変わってきています。

三つ目が平和を考える子供たちの作品展ということで、保育園や幼稚園、認定こども園の子供たちに作品の募集をかけています。今年２０２４年度も募集をかけています。これは募集内容がホームページにも掲載がありまして、毎年、子供たちが平和をテーマにして、いろいろな作品の募集をして、平和の重要性とか考えていることを子供たちに学んでもらうというものです。

四つ目が戦争体験記の公開ということで、これは、多分、平和都市宣言が３０年過ぎた後に、平成２８年度から２９年度にかけて、白井市内に在住している戦争を経験した人の体験記の文章を頂いて、広報に掲載をして、今もホームページにその内容を掲載しております。

五つ目が被爆アオギリ二世を植樹しています。毎日、大事にかわいがっている植樹、これは後で写真を見せますけれども、私が一昨年度、平和首長会議に出席をして、そのときに頂き、今現在、市役所に植樹をしています。白井中学校にもあります。

六つ目が平和首長会議ということで、これに加盟をしています。この中で、一昨年度、千葉県で一人だけ、この平和会議に行って、被爆をされた人の話とか劇を見てきて、そして平和公園も行って、考えるものがあつたので、今日、皆さんに提案をしたい内容です。実際に行ってみると、非常に悲惨な状況、来年で約８０年たつのですが、そのことは忘れてはいけないなというふうに痛感をしました。また、井上教育長も行ったのですよね。後にいる議員さんたちも行って、考えるものがあつたと思います。

最後には、７番目に戦没者の追悼式の開催ということで、２年おきに戦没者追悼式を行っています。ちょうど今年が順番の年になります。

ですから、こういうことで、約８０年前に起きた戦争、特に原爆を経験した、空爆を経験した人たちの記録なり、思いというものを後世に残していきたいという事業を進めているところであります。

これが被爆のアオギリ二世です。これは市役所です、副市長と自分と教育長の３人で植えました。白井中学校も植えています。ぜひ、これ見てください。冬になると結構葉が取れて、みすばらしい姿になってしまいますが、ちゃんと夏になると元気よく育っていますので、これは後世にもちゃんと残していきたいと思っていますところです。

そして、これが２０２２年１０月１９日と２０日に、自分が行かせていただいた会議の概略です。各国、世界で加盟している国が来て、いろいろなメッセージやディスカッションをやって、その後、原爆の像、原爆ドームを見に行って、また、子供たちが平和の、当時体験した記録を基にして劇をやっているのですが、たった一瞬で、楽しい日々から、本当に体中、皮膚がとけて、川にはいろいろな人が入って、悲惨な状況に変わったという、非常に心に残る。また、これは本当に、こういうことが起きてはいけないなというふうに感じてきました。

これが原爆の被害概要です。世界で初めて、この原爆というのが使われて、広島は1945年8月6日、ちょうど6日の8時15分に落とされ、世界で初めて、当時、死亡した方は約14万人いるそうです。今日もNHKで広島の市長や総理大臣がいろいろやっていましたが、このことは、決して忘れてはいけないと思います。だんだん当時の被爆をされた方が亡くなっていきます。そういう中で、当時、悲惨なことの思いやメッセージというものを次の世代に伝えていくことが非常に大切ではないかというふうに感じてきております。今でもその思いは変わりません。この思いというのは子供たちにもつなげていかなければ、大人としての責任があるということを感じているところでもあります。

ただ、今回、皆さんと一緒に議論をしたいのは、今までやってきた平和事業、平和教育、そして、私も行ってきた広島の現状や状況を、いかに次の子供たちに残すための手段は何がよいかということをお皆さんと一つ忌憚のない意見交換を交わさせていただきたいと思っています。

その中で、今、市がやってきた取り組み、現状の話をしました。実際の教育現場・学校で、学習指導要領の中に、何をどのようにやっているかを皆さんと共通認識を取らせていただいて、それも踏まえて、これからの、この悲惨な状況というか平和教育について、次の世代へどう取り組んでいくかについて話し合いをしたいと思っています。

教育委員会で、学習指導要領や教育基本法に則って、今、白井市として、どのような事業展開や、子供たちへ教えていくか、説明をお願いしたいと思っています。よろしくお願いします。

○大高教育部参事 それでは、教科における平和教育について説明します。

すみません、先に資料の訂正をお願いします。。指導要録ではなく要領となります。一番上の見出しのところと括弧の中の3か所訂正いたします。申し訳ございません。

では、説明を続けます。この画面にあるように、指導要領の前文及び総則において、どちらも「国際社会の平和と発展」という言葉が記されていることから、次代の社会を担う子供たちにとって、平和教育はとても重要であると捉えられます。

では実際に、学校ではどのような学習が展開されているのか、国語科、道徳、社会科の3教科を取り上げて説明いたします。

まず、国語科です。小学校4年生になると「一つの花」という物語を学習します。この物語にある文章表現から、戦争中やその後の様子、それから登場人物の気持ちや作者の思いに迫り、それから平和への願いに発展していきます。6年生になると「川とノリオ」という教材がありまして、文章中にある優れた表現から、戦争中の登場人物の心情を読んでいきます。この戦争を取り上げた二つの教材は、長く教科書に取り扱われており、皆さんの中にも、この教材、このお話を通して平和について考えた経験がある方もいるのではないかと思います。

次に、中学生になると、捉える視点が広がっていきます。1年生で学習する「ベンチ」。これは小学校同様、人物の心情に迫っていくのですが、ユダヤ人の主人公と、その背景にあるものを読み取ることで、平和について、よりグローバルな視点で考えていきます。

また、画面の右側の画像にあるように、関連する図書も複数扱いながら、当時の様子を捉えていきます。中学校3年の「薔薇のボタン」。これは戦争を経験していない筆者が、広島平和記念資料館である写真家との出会いの中で、新たな気づきや理解、共感があったことがつづられています。その読みを通して自分の考えを深めるという教材になります。

次に、道徳です。小学校6年生になると、「六千人の命のビザ - 杉原千畝 -」。皆さんも、この人

物、御存じのとおりだと思います。人が持つ強さや気高さ、難しい決断、よりよく生きるをテーマに話し合い、自分自身の考えを深めていきます。

中学校1年生になりますと、「歴史を変えた決断」ということで、湾岸戦争時に難民高等弁務官として難しいミッションを務めた緒方貞子さんの生き方や、遠い国で困っている人のためにどんなことができるのかについて考えていきます。2年生になると、再び杉原千畝が登場し、未来の自分の生き方について考えを深めていきます。中学校3年「平和への願い」。これは中学生が修学旅行で訪れた広島平和記念資料館で目にしたものや出会いの話から、国際理解と平和的共存、多様な他者との関わりを考え、深めていくものになります。

最後に社会科です。小学校6年生の「長く続いた戦争と人々の暮らし」では、長く続いた戦争は社会や人々の生活にどのような影響を与えたのか、今までに学習した戦争や平和に関することを関連付けて考える教材です。そして、「新しい日本、平和な日本へ」という内容につながり、戦後の日本が平和な国や社会をつくるために行われた改革を調べ、考えを深めていきます。

中学校の歴史でも同様に、戦争は人々にどのような影響を与えたのか、戦後、人々はどのように歩んでいったのかを学習し、平和な社会を築くために、日本や自分はどのように考えていくか、まとめていきます。

画像にあるのが、広島の復興と平和への思いというテーマで調査、それから考察していく学習例です。広島平和記念資料館で実際に調査することで、戦禍における人々の生活や平和への願いが、より具体的に捉えられることが分かります。このような学習が、子供たちが国際社会の平和と発展を考えていく下地となっていきます。

○榛沢教育部長 続きまして、教科以外で行われている、過去にも行われたことのある平和教育について御説明いたします。

まずは、修学旅行や校外学習等、校外での学習です。現在、白井市内の中学校は、京都、奈良を修学旅行先としていますが、白井中学校は、2018年から3年間、修学旅行3日間のうち1日を広島訪問にしました。当日は、広島原爆ドームや平和記念資料館を見学したり、平和な折り鶴をささげる活動をしました。しかし、広島と京都の移動に多くの時間を費やすこと、費用がかさむことが課題となり、現在は京都、奈良に戻しております。

小学校では、東京方面の校外学習の際に、東京の九段下にある昭和館を学習先にすることがあります。今年度は、桜台小学校の6年生が見学し、防空壕体験など、戦時下の人々の暮らしを学ぶことができました。

続きまして、図書室の環境の整備です。これは全ての学校というわけではございませんが、図書室の環境づくりを行っている読書活動推進補助教員が、夏休み前に戦争や平和に関する本を展示し、子供たちに戦争の恐ろしさや平和の大切さを訴える本に手を伸ばすようにさせております。

最後は、原爆体験者の語り部による講演です。2020年、白井中学校は、修学旅行先を広島にするなど、平和教育に力を入れており、被爆体験伝承者を学校に招き、スライドで被爆当時の現状や惨事を見ながら、平和について今一度、見直すことができました。

先ほど市長さんからもお話がありましたけれども、この講演を実施したこともあり、広島市から樹木の二世のアオギリの苗木を頂き、敷地内に植樹をいたしました。

以上で、学校教育における平和教育の説明を終わりにさせていただきます。

○笠井市長　ありがとうございます。

今、この市の取組と教育現場においての平和教育、平和事業について話をさせていただきまして、そして、自分が一番、今回このテーマで、この内容を伝えようと思ったのは、今の社会情勢は、日本も含めた世界情勢、見ていただくと、ロシアとウクライナ侵攻、2年以上になってきていて、拡大の懸念もされています。

また、イスラエルとパレスチナ情勢も変わってきています。中東問題も、これからどんどん悪化する懸念もされていく中、日本を取り巻く環境といいますと、社会主義国の、名前は差し控えますが、また社会主義国と日本を取り巻く資本主義国の軋轢が高まってきている。そういう中で、来年度は原爆が落とされてちょうど80年目を迎えます。もう一度、この軍縮というものを子供たちにつなげていかなければ、ますますおかしくなるのではないかという危機をしていたところです。

今回、この総合教育会議で、何をテーマにしましょうかという話のときに、今言ったように、混とんと、戦後80年近くになるわけですが、だけど相変わらず人間というのは同じ過ちを繰り返しながら、ますますおかしくなっている現状があって、実際に起きたことというものを次の世代に正しく、五感を使いながら伝えていくことが重要ではないかというふうに考えているわけです。そういうところで、どういう事業展開、どういう内容を進めればいいのか、皆さんの意見を確認しながら、新しい事業、新しい平和教育というものの啓発をやっていききたいと思い、今回、皆さんから意見を聞きたいと思ったわけです。

実は、8月の広報でも、こんなこと考えて、何かやりたいよということで、自分の市長メッセージに書いています。

皆さん、どうですか、実際にこのままいくと、80年前の苦しみというのをだんだん忘れていくだろうと思います。せめて子供たちには、同じ過ちを繰り返さないような、何か新しい取組というのを残していきたいと思いますので、何か皆さんの忌憚のない御意見、率直な感想なり、話を聞かせていただきたいのです。

○笠井市長　市長提案が先に出てしまいましたが、提案は置いといて、どうですか、率直に。最後に提案をさせていただいて、この提案も具体的には決まっていなくて、方向性だけなのです。私は実際に、子供たちに平和公園なり長崎を肌で感じてきていただいて、その感じたことを子供たちや市民の方に伝えていくような取組をやっていただきたいと思っているのです。市長提案のネタばらししちゃったのですけれども、それも含めて、率直な意見交換をさせていただきたいのです。やっぱり自分だけではなかなか最後まで分からない部分もあるので、皆さんが日頃考えている平和について、子供たちにメッセージをどうすべきかということをお聞かせいただきたいと思います。以降は着座にて進行します。

まずは、松田さんからお願いします。

○松田委員　私も朝、NHKで式典の様子を見ていまして、だから市長、この日を選んだのかなと思いました。

実は広島、長崎を訪れたことがないのですが、日本は世界中に唯一の被爆国ということなので、それを実際に現地へ行って、見て、聞いてという体験をしなきゃ駄目だなと、今日のテレビを見て、ますます思いました。市長もこのように生徒を派遣するということですので、ぜひ子供たちにそういう体験というのは一番だと思います。実際に自分の目で見る、聞くという体験から学ぶものがすごく影

響あると思うので、実現できればいいなと思いました。

○笠井市長 ありがとうございます。では、久保委員、お願いします。

○久保委員 私も、先ほどの教科書も、みんなお話は知っていて、小さいときから戦争等に関する映画も見てきたのですけれども、大人になって広島に行って原爆資料館を見たときに、今までは分かったつもりになっていただけだったのだなというのを感じました。なので、実際行ってみなければ感じられないことはあるなというのをすごく思います。

本当は、家庭でも平和教育についてしなくてはいけないと思うのですが、どんどん、戦争を知らない世代が親ですし、年齢に応じて教えたいこととか感じてほしいことがあると思うので、派遣案はすごくいいなと思いました。

あとは、行って、ちゃんと学んでこられるように、ショックだけを受けて帰ってこないように、事前教育とかは必要だと思うので、その辺もきちんとして上で実現できたら、すばらしいなと思います。

○笠井市長 ありがとうございます。中里委員、お願いします。

○中里委員 私、親族に広島出身がいて、この平和記念資料館は何回も行ったことがあります。一番小さいときで小学生で行って、あとは、大人になってから何回か行って、最後は自分の子供3人と妻の5人で行ったのですが、小学生のときは本当に怖くて、自分自身、見ていて、気持ち悪い、戦争もよくないという印象で、その親族も田舎のほうでしたので、きのこ雲も見ていて、いろいろな戦争の話も聞けました。実際に自分が、幼少の頃は怖いものという認識だったものが、大人になっていくと、今度は現実的に違う方向から見えて、改めて、こういうことはよくない。それをきっかけに、1人の人間に何ができるかといったら小さなものだろうけど、心の中に、そういう悲惨なことや駄目なこと、仲良くする、平和になるという気持ちを一人一人が持てればいいのか。そこから始めると、日本がそういう被害に遭った国であり、逆のパターンもあったのだろうけれども、今こうやって戦争をしないでいられるというのは、そういう一人一人の思いをつなげていくことかと。

先ほど説明でもありましたが、自分の子供を連れていったときに、一番下の娘は小学校低学年で、泣いて出てきてしまい、2番目の子は小学校3、4年生で、やっぱり気持ち悪いと、雰囲気からしてみたいな。でも、たまたま中学校の修学旅行で、その次男がもう一回行ったときには、中学生ながら、これはよくないものだという感想を言っていたので、小学生にはトラウマになって、あまりよくないものだと思いますが、中学生で、できれば修学旅行、費用、時間がありますが、広島は修学旅行、長崎は代表者だけ行くとか、そういう形で毎年つなげていってくれと、それが白井市の中学生には当たり前のことになっていって、それが高校、大学、大人になっても、その気持ちを忘れずにいられて、それをまた広めていってもらえる。大人になって、できればもう一度足を運んでいただければ、更に平和に対する考え方が堅固なものになるのかなと思いました。

以上です。

○笠井市長 ありがとうございます。

二人の委員さんの話を聞いていて、大分いろいろなヒントがあって、あまり若いとショックを受ける可能性もあるのは事実ですね。自分も行ったときに、トラウマになってくるのかなというのもあるので、そういう意見も踏まえながら制度設計を考えていければという、貴重な意見を頂いて、ありがとうございます。齊藤委員、お願いします。

○齊藤委員 広島と長崎は、長崎は行きましたが、長崎の平和公園とか広島原爆ドームは見たこと

がなくて、えらそうなことは言えないのですけれども、今回の市長提案、すごくいい提案だなと思います。

中学生で多感な時期に戦争を学ぶというのは、すごくいいことですが、さきほど市長が冒頭、諸外国の今、情勢がというお話ありまして、そういうことも含めて、中学生、生徒の派遣を考え、ただ戦争が悲惨だった、何て悲惨だったということだけではなく、なぜ原爆が日本に落とされたのか、あと、それが80年前で、いまだにその核の問題を引きずっていて、世界の情勢はこんな状況で、核をちらつかせて戦争を行っているなど。

あとは、私も朝、NHKのセレモニーは見ていましたけれども、2017年に核兵器禁止条約というのが制定されたのですが、日本はまだ、そこに反対の立場だというのは、なぜそういうことになるのかを派遣される子供たちにレクチャーしてもらってから行くのも、いい経験になるのかなと。

私、行ったことはありませんが、本当にその辺は思うところでありまして、その他の派遣のこと、御提案については、すごくいいと思います。

○笠井市長 ありがとうございます。今、おっしゃったように、憲法ができた歴史、戦争の歴史を少し学んでいかないと、原爆イコールいけない、ではなく、そういうことも、さっき説明したのですけれども、一連の過去の歴史をまず、ある程度、基礎知識を学んだ上で、そして現地を見て行って、あと、これからの今の世界情勢も考えながらやれば、本当に平和教育という面ではいいのかなと思っているのです。

最後に教育長も、よろしくお願いします。

○井上教育長 すでにネタばれですが、市長、正式に提案してみてください。

○笠井市長 もうネタばれしちゃったのですけれども、自分も教育長も現場に行ってみて、子供たちに何をメッセージとして、これからつなげていけばいいかということになってくると、自分たちで歴史を学んでいただきたいのです。憲法ができたいろいろな背景だったり、原爆の怖さだったり、原爆の必要性がないとか、そういうことも学んで、そして日本として何ができるかということも含めて、体験することが重要ではないかということ。

今回、私から提案させていただきますと、前にありますが、平和使節団として生徒、生徒ですから、先ほども意見がありましたが、あまり低学年だと逆にショックを受ける可能性もあるので、ある程度、今言った背景なり、いろいろな歴史が分かる一定のレベルの人たちに、広島、長崎に派遣をして、そして派遣をした結果、それを自分たちの目線で子供たちに伝えていく、または、市民の方に伝えていくような仕組みというものを提案させていただきたいと思います。

目的は、ここに書きましたが、戦争の悲惨さ、命の大切さ、平和の尊さ、実感をして学ぶ。また、その感想や思い、成果を市民に伝えることが平和啓発の促進につながるというふうに考えています。

来年、原爆が投下されてちょうど80年の節目になりますので、こういう事業を進めていきたいと思うのですが、具体的に、こういうふうにやったほうがいいのかというような御意見があれば聞かせていただいて、それをまた制度設計に踏まえて、やっていきたいと思っています。

今日は、担当部署の職員も来ていますので、皆さんの御意見を踏まえながら、企画なり方向性について進めていきますので、何か提案とか、こういうふうに工夫するといったようなのがあれば。実際に県内、今段階でもやっているところがあるのはあるのです。

つい最近ですと、8月6日、今日の新聞で成田市ですか、平和使節団を派遣をするという、記事も

ありましたので、目新しい事業ではないのですが、白井市として、何か新しい取り組みというものも進めていきたい思いで8月1日の市長メッセージを入れました。

具体的に皆さんで、白井として、こういうものを企画に入れたほうがいいというのがあれば、率直な御意見を聞かせてほしいです。工夫ですね、何かあれば。何でもいいですよ、自由な意見ですから。

ただ、全員派遣しようと思ったら、お金がかなりかかり、予算が絡みます。一番いいのは、一定学年に全員行けばいいのですが、なかなか、そうはいつでも夏休みに行くしかありませんので、皆さんスケジュールもありますし、ですから、そこは絞らせていただきながら企画を進めたいと思いますが、何か御意見等がありましたら、お願いします。

やっぱりこの8月6日を中心に、みんな行くのですかね。夏休みしか行けないですよ。どうですか、教育委員会。

○榛沢教育部長 大体そのぐらいです。

○笠井市長 ですよ。

うちもそうだよね、行くとしたら大体、夏休みしかないよね。

○榛沢教育部長 市町村によっては、8月6日とか8月9日に当ててはいないところもありますが、大体この近辺が多いです。

○笠井市長 当然、子供たちのスケジュールとかもあるだろうし、そういうのも踏まえて期日は設定したい。ただ、夏休み利用というのは、これは避けて通れないわけですね。

何かありますか。どうぞ、いい提案があれば。

○井上教育長 私も、この5月に長崎に行きました。全国教育長会議がいろいろ回っていて、今年行こうとしたのが偶然長崎。長崎だから行ったわけではなく、今年の会議に参加しようと思って行ったら、それが長崎だったということです。

あと、市長さんが広島に行かれていたことも知っていたので、さきほどの植樹のときとかも、広島はこうだったというような話をそのときに聞いて、かなり思いがあるのだなと。

自分が長崎に行って、会議の後に研修視察というツアーが組まれていて、半日ぐらいだったので、かなりいろいろ見させていただいたり、被爆者の方にお話を聞いたりということがあったので、現地に行くというのは、全然違うなと。私も中学校の国語の先生として、さきほど出ていたような教材で平和については授業でやったりしていたのですけれども、やはり実際に行くのは、印象というか、自分が感じるのは全く違うなというふうに思っていました。

議員の方、何人かいらっしゃいますけれども、教育福祉常任委員会も去年、長崎に行かれたという話も聞いていますし、このようなことが御意見としてあったということも伺っています。なので、市長が広島、私が長崎、常任委員会が長崎というのが重なったのは、偶然ではないような感じもするので、来年80周年とか数字がある年なので、こういう企画かなというふうに思います。

中学生が、やっぱりいいかな。具体的な内容については、また考えなければいけないと思います。もちろん教育委員会としてやらせていただきたいとは思いますが、他市の話を知ると、総務部とか企画でやっているというふうに聞くのが多いですが、教育委員会でやらせていただきたいと思います。予算の課題もあります。各中学校5校で、何人ぐらい連れていけるのか考えなくてはいけないというのがあります。ぜひ実現して、体験することは物すごく大きいと思いますので。

市民への還元というのが最後にあるので、それはいろいろな形で、市のホームページを使ったり、

広報紙とかもありますので、いろいろな形でできるとは思います。中身についてはこれから具体的に考えていかないといけいないと思いますが、やっぱりこの偶然、偶然じゃないのだなというふうにしていきたいなと思いました。

○笠井市長 ありがとうございます。

率直に、自分も行つてショックだったんですよ。ああいう悲惨な現場を知らない。テレビとか、いろいろなものでやっていますけれども、実際、体験と経験した人の話を聞く、それを子供たちが寸劇をやってくれる、それを見て、このままでいいのかなという率直に考えたのですよね。ですから、苗木をもらってきて、植えたいなと思って。ただ植えるだけでは、先ほど言ってきたように、ほとんど認知されていませんから、やっぱり違ったやり方、仕組みもしていかなければ、なかなかこの思いというのは、つながっていかないのだろうなと思っています。

今回たまたま、全国市長会というのがあるのですけれども、そこの会長が広島市の松井さんだったのですよね。そういう御縁もあって、ぜひ広島にお邪魔して、やりたいなと。

ただ、原爆というのは広島だけじゃありませんから、長崎も、同じように思いがありますので、広島、長崎に交互に行くことが平等なのだろうなと。1か所だけ行っちゃうと、やっぱり違うので。どうですか。

○久保委員 まだ全然、多分、具体的に決まっていないことだと思うので、最初をお願いというか、言っておきたいというか希望です。私は大人になって行きました。行っているときに、修学旅行で来ている、どこかの女の子たちがいて、原爆ドームの前でピースサインをして写真を撮ったり、それは事前の指導とかなかったのかなと、すごく思ったのです。

だから、やっぱり行くからには、ちゃんと歴史とかも分かっている子を連れて行ってほしいというのと、あとは、メンバーの中に、先生方の負担が増えるかもしれないのですけれども、子供たちがちょっとショックを受けたりしたときに、寄り添ってくれるような市内の先生も入れていただけたら安心です。

○笠井市長 ありがとうございます。二つですよ。一つは、歴史観なり思いというものをちゃんと基礎知識を学んだ上で参加をするということね。

それと、大人、先生も一緒に付き添いで行って、いろいろなフォローをしていくということですね。ありがとうございます。

○久保委員 それをお願いしたいです。

○笠井市長 ほかに何かありますか。

○中里委員 皆さん言っているとおりで、その提案の使節団は、とてもいいと思います。

先ほども言ったのですけれども、代表として行く、プラス修学旅行で行けないのかなというのは、ちょっと心残りがあります。

ただ、前学習して実際に行つて、でも、その前学習をするに当たっても、できれば行くメンバーだけでなく、その学校、学年で授業スタイルで取り入れてほしいです。そこで前学習をして、できれば地域の学芸員さんとか呼んで話を聞いたりするのもいいと思います。

実際に行つていただいて、復習として、多分、各学校に戻つて、各学校でこうでした、ああでしたという報告の場所はあると思うのですけれども、ちょっと目的が違いますが、できればそういうのをスクールサミットの一コマに入れるとか、そうやって揃つて行つたチームで、各学校じゃなくて、み

んなの前で経験を話していただいて、広めていただければと思います。

以上です。

○笠井市長 今回の提案、企画ありましたけれども、それも踏まえて、ここで自分が回答するわけではないけれども、教育委員会で、今言った内容も含めて考えていただければいいなという。

やっぱり大事なことは、自分の思いをつなげていくという仕組みが大事だと思っているので、行って、ただその子の感想だけではなくて、その思いなり感じたことを次につなげていければいいなと思っていますので、それも踏まえて企画内容を考えていきたいと思っています。ありがとうございます。

大分、修学旅行にこだわるね。

○中里委員 自分の経験と、自分の子供たちのそのときの経験、表情をいろいろ見ているので、本当に見たほうがいいと思う。

○笠井市長 修学旅行先で、さっきみたいにピースサインする子が絶対いますので、目的が見えていない。

○中里委員 それは学校でちゃんと先生たちにお願ひして。

○笠井市長 ほかにありますか。

○齊藤委員 さっき委員さん二人でお話ありましたけれども、提案ということなので、まず、どういった学習内容とかというのが、私も漠然とよく分からないのですが、現地に行くまでの方法というのは、多分、新幹線か何かになると思うのですけれども、まず派遣する途中のところを点から点ではなく、線から線でもなく、平面、面積で考えてもらって、広島なら広島の面積の中、そういう市街地の中とか、いろいろなところでいろいろなものを経験してもらって、例えば語り部を聞くとか、いろいろな方法はあると思います。原爆ドーム見るのもいいのでしょうけれども、そういった現地でいろいろなものを見て、長崎だったら長崎でという、どういったことで被爆されたのかとかという現地の方にお話聞くのもいいでしょうし、そういった何か企画みたいなのを盛り込んでいただければ、ただ東京から広島に行った、東京から長崎に行ったというだけではなくて、その現地の中で、もっと見たり聞いたりすることが大切なのかと思います。

実は、私も祖母と一緒に小さい頃、住んでいました。市長もそうだと思いますが、そういったときに、いろいろな戦争の話とか聞いたと思います。例えば神々廻の下にB29が落ちたとか、そんな話聞いたと思うのですけれども、そういうのって、すごく衝撃で、やっぱりそういうとき、その年齢で聞くと、しかも現地の人の話を聞くということは、すごく目で見たりして、それを聞いたりするのは、すごく内容がいい学習ができるのかなと。先ほど中里委員が言ったように、戻ってきて、皆さんの前で報告するということができれば、行った方もいいし、それを聞いている方も、本物の話を聞けたということで、ぜひ提案といいますか、平面、面積、その地域で見てもらおうというのを一つ盛り込んでいただければと思います。

○笠井市長 ありがとうございます。

本当に、ただ体験するだけじゃなくて、やっぱりいろんなことを学ぶ機会をつくると、そして体験なりで経験をさせていただくのと、そして交流ですよ。いろいろな人たちと交流する機会というものもつくりながら、他市でもこういう派遣団をやっていますので、その事例などを見ながら、当然、長崎も広島も受け入れ態勢ができていて、そういうところとも交流しながら、子供たちに合ったプログラム内容を検討していきたいと思っています。

大事なことは、本当にもう二度とああいう悲惨なことが起きないように、やっぱりつなげていくということが大事ですので、ぜひ分かるような内容にしていきたいと思っています。

○井上教育長 最後に、これ当然、学校とも相談しないといけません。もちろんやる方向で、校長会と十分、打ち合わせをします。

○笠井市長 ありがとうございます。

大分早いのですけれども、こういう事業を進めていきたいという、戦後80年になりますので何か節目として、忘れ去られることが多くなってくるので、教育委員会として、子供たちに継承するような事業というものを一つ追加していきたいと思っています。

内容については、先ほど教育長が言ったように、現場の先生方、校長会もありますので、そういうことも踏まえて企画を、今回も教育長が出ていて、教育委員会でやってくれますよね。

○井上教育長 はい。

○笠井市長 そういうことで進めていきますので、よろしくお願ひしたいと思います。予算はしっかりと確保できるように頑張りますので、お願いいたします。

では、大分早いのですけれども。

○事務局 本日はありがとうございました。

以上をもちまして、令和6年度第1回白井市総合教育会議を終了します。

次回は、10月頃を予定しております。

本日はお疲れさまでした。

午後3時55分閉会